



向陵広場

発行号 第54号
 発行日 令和元年12月19日(木)
 発行元 向陵編集校友会
 責任者 伊藤有司 (県商 10 回卒)

建築を支える資材に夢を託す 利根川 義興 氏 県商 16 回卒(昭和 42 年3月)



会社名 有限会社カネト産業(プラスチック建築資材加工)
 創業 昭和 35 年
 代表者 代表取締役 利根川 義興
 住所 豊橋市大崎町浪入 30
 家族
 利根川 いよ (女商 5 回卒 昭和 15 年3月) 物故
 利根川 義興 (県商 16 回卒 昭和 42 年3月)カネト産業
 利根川 希美代(県商 17 回卒 昭和 43 年3月)
 利根川 貴好 (橋工 45 回卒 平成 5 年3月)カネト産業
 利根川 剛 (県商 44 回卒 平成 7 年3月)
 利根川 誓子 (県商 47 回卒 平成 10 年3月)

父から受け継いだ宝物

父は商才にたけており、さらに起業精神が旺盛な持ち主で人生を休むことなく駆け抜けていった。

戦後の食糧難の時期に食堂を営業し伸び盛りの学生に対してご飯を大盛にして人気のあった店でした。しかし食材を調達するにはかなり苦勞をしていたようであった。

昭和 23 年頃になると世間は穏やかになり、生活用品を新しい物に買い替える家庭が多くなり、古い物の処分に困る人が多く居るとの情報を得て、早速リサイクル業の真似事の店を開店し、各家庭から使わなくなった多くの用品を回収してそれらを修理したり、磨いたりして再生商品として販売する商売を続けていた。

昭和 25 年頃の特需景気により経済界も活気づき、各企業は経営拡大が急務となって工場を増設・事務の改革に力を入れるようになった。世間の家庭も収入が増えて建築ブームの兆しがあった。父は建築に関する業界は将来性があると確信を持ち、早速誰もがやらない建築資材のプラスチック加工製造に着手した。

私は大学卒業後に一般企業に就職したが、昭和 48 年に会社を退職し家業を継ぐために建築資材に関する勉強をし、父の指導を受け商売のノウハウを一から学んだ。

平成2年に個人企業から「有限会社」の登記をして経営の充実を図り建築資材の製造・品質改善・販売ルート等の見直しをしたが、建築業界の進化速度は速くそれに応じるために設備にかなりの投資をして経営を継続している。

「カネト産業」も父が創業して私が2代目として引き継ぎ3代目として長男の貴好が私の片腕として現在会社の経営・現場の資材の管理・製造の仕事等に携わっており、私が父から教わったノウハウを伝授し、さらにそれらを更に若い世代の感覚で新しい建築資材を生み出すように期待している。



後列左側より 剛(次男)、貴好(長男)
 前列左側より 義興(主人)、希美代(妻)、誓子(長女)

